

事務局から

▼所員 理事として活躍いただいた片岡弘さんが、その任から離れます。片岡さんには創設以来、長年に亘り研究所運営に関わっていただき感謝します。新たに和澄利勇さんを所員として迎えました。活躍に期待します。

編集後記

▼三条市で新たな動きがありました。9月中旬、閉校の方針を初めて知らされたPTAが、説明会をポイコットしたことです。三条小学校の児童数は約80名です。五十嵐川の氾濫、堤防拡張により、地域住民の移転が重なりました。そのため、この10年間で児童数が半減しましたが、同校長によれば、「近くにアパートが新築されたことにより、児童の転入が見込まれ、今後、同程度の児童数の確保は可能」とのことです。

三条小学校のPTAが説明会の出席に応じなかった理由としては、①耐震強化の方針を以前から要望・陳情してきたが、これについて市当局は「計画的に進めているので待つて欲しい」と回答していた。ところがそれを放置して、耐震強度が国の基準に適合しないので閉校とはおかしい②三条市

の学校統廃合の方針「地元住民の意見を聴き」に反して、今までに意見聴取がなかった。③説明会に参加することは、「地元住民に説明した」既成事実作りとなり、市の方針を認めたことに繋がる、としている。

一方、國定三条市長は、「児童の安全優先で、閉校、近くの新築学校への転入を」「親のノスタルジーで、耐震基準に適合しない校舎で学ばせることは出来ない」と発言し、閉校方針を押し通す構えです。くだんの市長の行政「効率化」や、自分の「理念」を実現するために住民と争うような市政運営では、教育にとって不幸です。今後、閉校の条例案を市議会に上程することとなり、市議会の対応が注目されます。(小東)

▼第189回通常国会は9月19日未明に戦争法が成立し、27日に閉会しました。戦後最長の期間を記録した今国会は、立憲主義の意味を鋭く国民に問いかけてました。その後の野党の臨時国会開催の要求にも聞く耳を持たない安倍内閣には、一刻も早く退陣してもらいしかありません。

▼9月27日(日)のシンポジウムで基調講演をお願いした和光大学教授の山本由美さんの講演では「中一ギャップ」についても、わかりやすく説明していただきました。「中一ギャップ」を字面だけで理解したと思い

こんでいたことを反省させられました。▼今年も、早や、師走に入りました。みなさまには、「愛読いただき、ありがとうございます。ひきつづき、来年もよろしくお願ひ申し上げます。

「去年今年 貫く棒の 如きもの」
(高浜虚子)

みなさま、どうぞ良いお年を。

(小野塚)

にいがたの教育情報 No. 119

2015年12月8日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林 昭三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。